

総選挙 協会所属候補が健闘 26名が当選!!

第42回衆院選が6月25日に行われた。民社協会所属候補は各地で小選挙区・ブロックそれぞれで友愛連絡会をはじめとする旧民社陣営が結束して闘い、改選前議席21を上回る26名が当選を果たした(結果一覧4~6頁)。

中でも民社党時代から12年にわたり国政選挙に挑戦を続けてきた神奈川4区の大石尚子候補(協会理事)は街頭などで「教育改革を国政から」と訴え、有権者の支持を得て堂々の初当選を果たした(写真・神奈川新聞社提供)。

しかしながら議席奪還を目指した米沢隆候補(協会会長)、また前職の鰐淵俊之・吉田治・島津尚純各候補(と

もに協会理事)は健闘するも惜敗した。

また各都道府県協会もその多くが地方友愛連絡会との合同選対を中心として183名の候補者を推薦(支持・支援を含む)。そして地方議員・労働組合員などが



一丸となって選挙戦を進めた結果、小選挙区で91名が当選を果たした。また比例区での票の掘り起こしもこれらを中心に行い、多くの民社系比例区候補当選を生みだすかなめとなった。

民社協会「あり方懇談会」設置を決める—役員会・理事会—

民社協会の役員会・理事会が7月5日、友愛会館9階の会議室で行われた。

午前11時に開催された役員会では吉田理事長、中野副理事長以下12名の常務理事、事務局4名が出席した。諸報告の後、協議事項に移り、総選挙総括案について、民社協会の今後のあり方について、協会所属新人議員の扱いについて、当面の役員構成について、その他の事務局提案に対し議論がなされた。そして、これらの論議を踏まえて午後の理事会に諮ることが確認された。



同日午後1時半に開かれた理事会には国会議員、地方ブロック代表、産別代表の各理事など35名が出席した。吉田理事長の挨拶の後、総選挙結果報告、友愛連絡会その他の報告がなされたあと、協議事項に移った。

協議事項では最初に、総選挙総括について伊藤郁男理事が提案・説明を行い、協議を行った。そしてこれらの意見をふまえ、修正を加えた上で取りまとめることが決まった。

次に真鍋事務局長より「『総選挙後にあり方を議論する』とした4月1日の総会決定に基づいて協会のあり方の議論

を開始したい」として、「あり方懇談会」を設置し、来年の総会で結論を出す旨の提案・説明があった。これに対して、「地方協会・地方議員の立場から言えば、協会は独立した政治団体として政党と距離を置くべき。地方議員・地方協会が主軸となって論議すべきだ」(松下四国ブロック代表理事)、「民社党の理念・政策が完全に民主党に受け継がれているとはいえないが、われわれはそれをめざしてきた。長崎県協会では発展的解消と民主党への合流も考えている」(川村九州ブロック代表理事)、「私は民社の理念を自由党に受け継ぐべく頑張ってきた。登山口はいろいろあると思う。協会のあり方を考える場合、もっと視野を広げるべきだ」(西村眞悟理事)、「埼玉では地方議員が骨身を削って応援し、民主党が大衆的組織政党となるのを期待してきたが、本当に民主党のために汗をかくのがいいのかという疑問が大きい」(中田北関東ブロック代表理事)、「あり方懇談会の構成は少数の方がよいと思うが、地方代表が少ないと意見も反映しにくい。結論を出す前に必ず地方で議論をする機会を設けてほしい」(風早北海道ブロック代表理事)などの意見が出た。これらの議論を踏まえた上で、「あり方懇談会」の設置については、別掲のとおり決まった(「あり方懇談会」地方代表者については理事会終了後、直ちにその人選に移り、協議の結果4名が内定した)。

この他、今次選挙で当選した新人議員については、分担金を要請していくこと、役員構成について逝去(福岡宗也氏)、退会(中村鋭一・鰐淵俊之両氏)を除いて、次回総

次頁に続く